



## 今年も元気な岩北署



安代小学校 5 年生 20 名)の 森林学習をまとめたレポート』を署内に展示しています!!

あっぴー君



森林教室ギャラリー



佐藤 寿理

## 冬期事業における労働安全の確保について

12月1日から冬期事業が開始されましたが、当署では、平成22年度「冬期事業労働災害防止対策強化期間」を設定し、労働安全確保対策の一層の強化を図ることにより、労働災害、特に重大災害の絶滅を期することとしています。

特に、冬期事業では寒冷や積雪等の悪条件も重なり、作業環境や交通事情等が一段と厳しくなることから、労働安全対策の一層の強化を図っていただくようお願いするとともに、事業開始直後の災害が多発傾向にあることから、「守るべきことは守る、守らせる。してはいけないことは絶対しない、させない。」を合言葉に基本動作の徹底等をお願いします。

また、東北局管内における交通事故が多発傾向にあり、その中でも接触・追突等の事故が多いことから、防衛運転に心がけていただくとともに、今後多くなる凍結路面などにおいては、カーブや下り坂等での減速に加え、いつも以上に車間距離を確保するなど、路面状態に合った適切な運転等に努めて下さい。

毎日の安全作業の積み重ねが冬期事業期間の無災害へとつながり、ひいては年度内無災害目標である2,718日(12月28日 現在 2,624日無災害)の達成にもつながりますので、健康管理と合わせて日々の着実な安全諸活動への取り組みをお願いします。

# 地域に有って良かったと思われる岩手北部森林管理署を目指して ～平成22年を振り返って～

## 総合的な森林学習の実施 (森林環境教育サービスパック2の活用)

改訂版の森林環境教育サービスパック2を活用して、「あっぴ高原遊々の森」を中心に八幡平市内の田山・安代・松野小学校が延べ10回の森林教室を実施、当署では多くの職員が講師を務めています。



今年は、安代小学校の依頼により国有林内で生徒自らが間伐した間伐材で炭焼体験を自習し、新聞に掲載されました。今後も学校側と連携を密に森林学習の内容を充実させていきます。



## 「あっぴ高原遊々の森」 フィールドの整備・意見交換会の開催

10月28日(木)協定を締結している、八幡平市との共催により当署の職員、市民ボランティアなど約70名の参加をいただき、初雪が降った寒い中「あっぴ高原遊々の森」にて、灌木の刈払い・フィールド等環境整備を体験してもらい、今後のイベントの進め方等について参加者と意見交換を行いました。



平成23年5月で「遊々の森」の協定が更新をむかえるため、今後、八幡平市、地域関係者との意見交換を開催、イベント・PR活動の推進、フィールドでの地域住民によるボランティア活動を活発化させていきます。



## 林業事業者との意見交換会

4月13日(火)当署会議室において木材需要者ニーズに即した、生産・販売意見交換会を行い、森林整備に伴い発生する間伐材の利用促進、収入の拡大を図るため素材生産業及び木材加工業の20社が参加しました。

この意見交換会は今年で4回目となり参加者からは、素材、立木販売計画量及び森林整備に向けた低コスト作業システムの普及・定着、民有林と国有林との共有できる作業道の作設の検討等について要望が出されました。

素材・生産の量・質の安定した供給をすることにより、木材需要者ニーズに即したより戦略的な生産・販売を行っていきます。



## 地域住民への防災情報の発信 治山技術の普及・啓発 (森林を支える人づくりの推進)

6月25日八幡平市天狗森国有林において、岩手県、秋田県の米代川流域漁協関係者、八幡平市地域住民、岩手北部・米代東部森林管理署職員、地元小学生等約140名が参加し、国有林野における防災の役割等について地域住民の



方々への情報提供を行うとともに、森林の持つ多面的機能への理解と関心を深めてもらい、森林づくりへの参加意識の高揚を図ることを目的とし治山工事箇所周辺において植樹祭を開催しました。



治山工事は、下流住民の生命・財産を守るための重要な役割を果たしていますが、集落より離れたところで工事が行われており、その防災の役割等について余り知られていないこともあり、今後も地域住民の見学会の開催、国有林の治山工事のPRを継続していきます。

### 緑の回廊における野生動物調査 (生物多様性保全のための森林整備)

「緑の回廊」において森林総合研究所と連携、安比岳国有林内に24時間監視によるビデオカメラを設置、野生動物のモニタリング調査を実施しました。

また、生息、生育する野生動物の広域的なつながりの確保(緑の回廊整備)、数多くの種類の野生動物が生きていくための餌場の確保(稀少野生動物植物保護管理事業)のために針広混交林化多層構造の森林整備(抜き伐り)を実施しました。

生物多様性保全のための森林整備は国民からのニーズも高く、今後も継続していくことが必要です。

監視カメラによる野生動物との広域的なつながりの確保も確認され、森林総研と連携したモニタリング調査をしていきます。



森林総研 提供 (デジタルカメラでの撮影)

### 森林化技術の開発 (天然林を活用した牧草地)

岩手北部森林管理署管内には、これまで牧草地として貸付してきた牧草地が約450haあり、現在休止中の200haの森林化に向け、八幡平市と連携しながら、低コストで多様な野生動物が棲む豊かな森に再生させることを目的として取り組んでいます。

森林化技術の開発を進めて2年が経過し、天然更新・播種区とも幼樹発生状況はha当たり100,000本程度良好な発生箇所もみられ、それぞれの試験区では樹木発生状況に違いが見え始めてきており、継続した試験を実施します。



天然更新区発芽状況  
(2年目のミズナラ) (イタヤ・ダケカンバ)

### 現地検討会の開催 (間伐の推進を図る)

11月17日(水)八幡平市稲庭岳国有林において、関係者40名が参加、馬淵川上流流域森林・林業活性化センターとの共催により効率的な間伐作業システム(高性能林業機械導入による列状間伐の推進)の普及と森林所有者への理解の定着に向けて「間伐講習会」を開催し、意見交換を行いました。



森林・林業再生プランが策定されたこともあり、間伐の推進に向けた、高性能林業機械導入による効率的な間伐作業システム及び国有林と

民有林の連携による集約化施業団地の設定等について森林所有者に理解してもらうことが必要であり、今後も引き続き間伐講習会等を開催し情報交換が重要です。

### 葛巻町における交流体験の森の整備

平成 21 年度に設定した、農水・文科・総務の3省連携による「子ども農山漁村交流プロジェクト」の受け入れモデルである葛巻町の上外川国有林で、関係機関の協力を得て、森林環境教育リーダー研修を実施しました。今後は関係団体と連携を深めながら体験プログラムを推奨していきます。



なお、この成果については、平成 22 年度森林技術研究発表会で発表する予定です。



### 局長 巡閲

10月14日

### 局長訓辞より

- 『・森林再生プランについて民有林計画制度の見直しがあることから、国有林として市町村の方向性をバックアップしてほしい。
- ・山を見る力をつけて、国有林の職員がここにありという姿を示してほしい。
- ・若い職員を中心に山を見る力が不足している、周りの人と現状等について議論をしていただき、しっかりした山作りをしていただきたい。
- ・公務員に対する姿勢が問われており、法令

の遵守をしていただきたい。』  
との訓辞がありました。



### 森林官便り 兄畑森林官

～ 一年を振りかえって ～

三陸北部署より兄畑森林事務所に赴任し 10ヶ月が経ちました。赴任して以来、兄畑・兄川地区の方々には様々な地元行事に呼んで頂き、御輿担ぎや地元運動会の優勝杯で勝利の美酒に酔いしれるなど地域と密着した経験を色々体験する中で、クマにも驚かなくなりました。

体力維持のために、月 100km ほど事務所の周りを走り、ハーフマラソン大会に数回出場しましたが、半端な練習量と日々の過剰なカロリー摂取のためか、制限時間オーバー・過呼吸で両腕が痺れて失格など散々な体たらくでした。今年こそは暴飲暴食を慎み、適正体重を目指し、フルマラソンを完走できるほどの体力・精神の向上を目指したいと思います。

皆様方、本年度もよろしく申し上げます。



2011・国際森林年

「2011 国際森林年」(International Year of Forests) とは、国連総会決議により定められた国際年です。国際森林年では、現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、持続可能な開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされ、ロゴマークは「Forests for People (人々のための森林)」というテーマを伝えるもので、世界の森林の持続可能な経営、保全等における人間の中心的役割をたたえるもので、人々の居住環境や食料・水等の供給、生物多様性保全、気候変動緩和といった森林の多面的機能が人類の生存に欠かせないことを訴えるデザインです。